

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

ふえーぬかじ

# 南ぬ風

51

— 2019.4~6 —

春





空港のイメージアップにも貢献しているランの花

沖縄美ら海水族館アンテナショップ「うみちゅら那覇空港店」  
(案内ターミナルビル2階)

那覇空港には、まだまだ可能性  
があります。現状と今後について、ど  
のようにお考えですか？

那覇空港の優位性としては、第一  
に沖縄の立地があげられます。台湾  
は東京よりも近くて1時間、香港へ  
2時間、バンコクへは4時間、シン  
ガポールには4〜5時間という近  
さです。第二は24時間運営であるこ  
と。東南アジアの大都市では空港の  
24時間運営はよくありますが、日本

の場合、大阪よりも西で24時間運営  
可能なのは北九州空港と那覇空港  
だけなんです。那覇空港を基点とし  
て、各地を結ぶ拠点の空港となり得  
ます。すでに貨物ではハブ空港にな  
りつつありますが、旅客もそうなる  
と思いますよ。そして第三が国際線  
ターミナルと国内線ターミナルが  
連結していること。実はこの2つが  
連結している拠点空港は少ないん  
ですよ。例えば香港やシンガポール  
のお客さんが飛行機を乗り継いで  
北海道へ行く、そんなときにも那覇  
空港は便利です。那覇の市街地も近  
い。利便性が高く、世界のお客さ  
まに喜ばれるターミナルになりつ  
つあります。トランジットで立ち寄  
る方も増加すると思います。

— 今後の展望をお聞かせください。  
— 那覇空港と財団の連携が強化さ  
れると、当事者間だけでなく沖縄観  
光全体にもメリットがありますね。  
— そうですね。現在の国内線ター  
ミナルのオープン当初から、1階  
到着ロビーに設置されている水槽  
でPRをしていただけだと思っています。  
豊かな海は沖縄の財産。那覇空港  
に着いたばかりのお客さまがあの  
水槽を見て「沖縄に来た」と実感  
するぐらい、強い印象を与える存  
在です。今回オープンした案内ター

— 那覇空港内連結ターミナル施設  
(以下、案内ターミナル)がオープン  
して、ますます那覇空港が賑わいま  
すね。  
— 沖縄県全体の入域者数が増加す  
る中、国際線の乗降客数の伸びは目  
覚ましいものがあります。現在の国  
際線ターミナルビルがオープンし  
た前年の平成25年度は、年間約  
100万人だった国際線乗降客が、  
平成30年度は年間約360万人。3  
倍以上になりました。現状では、出  
入国審査のカウンターが不足して  
長時間かかるという事態にもなっ  
ています。そのため、税関、出入国管  
理、検疫の機能を持った新しい  
CIQ施設が2020年夏までに  
オープン予定です。さらに、同年3月  
には第二滑走路も供用が開始されま  
す。外国、特に東南アジアからの旅客  
数はさらに増加する見込みです。

— 案内ターミナルの完成には大き  
な意味があるんですね。  
— はい、そうなんです。今、那覇空港  
の乗降客数は年間約2100万人、  
国際線が約400万人に国内線が  
約1700万人です。航空会社や  
ショップのスタッフ約4000人  
も合わせると、1日約55000人  
が那覇空港を歩き来している。これ  
はもう、ひとつの街と言っている。規  
模です。これまで以上に、賑わいの  
ある空港にしたいと考えていま  
す。案内ターミナルには、国外の  
お客さまのニーズも考え、日本の

— 空港からのアクセスは沖縄美ら海  
水族館にとっても課題の一つです。  
— 沖縄美ら海水族館と首里城公園  
は、沖縄観光の二大拠点ですからね。  
沖縄美ら海水族館の気持はすこいで  
すよ。先日行ったシンガポールでも、  
セントーサ島のマリンライフ・パー  
クという施設に、大規模な水族館が  
あるのですが、「沖縄美ら海水族館の  
ジンベエザメをもう一回見に行きた  
い」と話す人がいました。

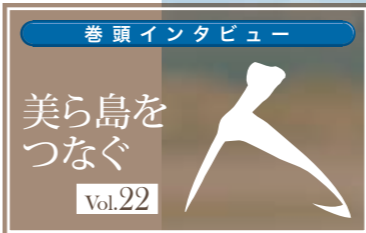
— 那覇空港ビルディング株式会社  
と財団との連携は、他にも何かあ  
りますか？  
— あちこちにディスプレイしてあ  
るランの花ですね。我々と財団の関  
連会社である沖縄熱帯植物管理株  
式会社が国内線・国際線・案内ター  
ミナルに合計約4千株ものランを  
設置し、お客さまを迎えています。  
これが非常に好評をいただいてお  
ります。世界中でこんなにたくさん  
のランが咲いている空港というの  
は、那覇空港だけだと思います。

— 那覇空港ビルディング株式会社  
代表取締役社長  
— 旅の玄関口と目的地  
協体制があれば  
可能性はさらに広がる

2019年3月18日に供用  
が開始された那覇空港内連結  
ターミナル施設。これまで離れて  
いた国際線ターミナルと国内線  
ターミナルを連結する新しいビ  
ルで、これにより那覇空港の利便  
性はさらにアップ。2020年  
には第二滑走路も供用開始予定と  
なり、今後、さらに乗降客数が増  
加する見通しだ。沖縄美ら島財  
団(以下、財団)との連携で沖縄  
観光を盛り上げたいと語る那覇  
空港ビルディング株式会社の  
兼島規社長に話を聞いた。

— 兼島規社長に話を聞いた。  
— 兼島規社長に話を聞いた。

— 兼島規社長に話を聞いた。  
— 兼島規社長に話を聞いた。



# 兼島規

KANESHIMA SATOSHI

文：いのうえちず

沖縄市出身。1976年3月、国立大学法人神戸大学卒業。1976年沖縄県庁入  
庁。2009年沖縄県総務部長、2012年沖縄県公営企業管理者企業局長、  
2013年沖縄振興開発金融公庫理事などを歴任。2015年6月より現職。



— 兼島規社長に話を聞いた。  
— 兼島規社長に話を聞いた。

## contents

美ら島をつなぐ人	02
おきなわ暮らしのカレンダー	04
沖縄美ら海水族館で出会える生き物	05
熱帯植物ずかん	05
調査研究	06
普及啓発	08
御城物語	09
うちのーの手わざ	09
運営管理	10
スポットライトの向こう側	12
財団いんふお	14
編集後記	15
おもろさうしの植物	裏表紙

作品タイトル「黒漆花紋螺鈿八角東道盆『陽』」  
沖縄美ら島財団理事長賞

モダンな印象の東道盆。「身の回りの風景を切り取った」と語り通り、黒漆に鮑貝を使った螺鈿で表現されたシロバナセンダングサが目を引く。蓋上部の見事な稜線は、太陽の光をイメージし、石膏の型に麻布を貼り重ねる乾漆の技法で表現。本体部分の指物はヒバを用いて作成した。

沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 工芸専攻  
上江洲 安龍さん(沖縄県出身)

51号から54号までの1年間は、沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科「第30回卒業・修了作品展」で受賞した3作品および推薦作品が表紙を飾ります。若い才能にご注目ください。

誌名「南ぬ風(ふえーぬかじ)」とは…  
南ぬ風は、梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことで、この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信していきたいと思っています。

# 沖縄 美ら海水族館で 出会える生き物 Vol.11

和名: オオテンジクザメ  
科名: コモリザメ科  
学名: *Nebrius ferrugineus*



水中でオオテンジクザメのエコー検査をしている様子



オオテンジクザメの胎仔のエコー画像

オオテンジクザメは、インド洋～太平洋域のサンゴ礁域にすむ底棲性のサメで、全長約3mに達します。餌を吸い込む力が強力で沖縄の方言で“タコクワヤー”（タコ喰い屋）と呼ばれています。沖縄美ら海水族館の「黒潮の海」大水槽では雌雄の飼育展示をしており、2006年には繁殖賞を受賞し、現在も水槽内繁殖をしています。

繁殖方法は、胎仔（赤ちゃん）が子宮の中で栄養卵を食べて成長する『卵食型の胎生』です。以前は子宮内の胎仔の行動は不明でしたが、水中エコーで観察を続けた結果、子宮内の胎仔は高い遊泳能力を持ち、左右の子宮の間を頻りに移動することを発見しました。このような行動は、サメ類において観察された事例が無く、世界で初めての報告になります。

左右の子宮の間を頻りに移動するエコー動画は、沖縄美ら海水族館「サメ博士の部屋」で展示しています。ぜひご覧ください。（村雲 清美）

# 熱帯植物ずかん vol.07

## ～デンドロビウム～

科名: ラン科  
学名: *Dendrobium* spp.  
英名: Dendrobium



沖縄国際洋蘭博覧会 2003 内閣総理大臣賞株のスペシオサム



デンファレ系



沖縄本島に自生する  
オキナワセッコク

デンドロビウムは、熱帯アジアを中心にヒマラヤ、オーストラリア、ニュージーランド、北は日本、東はポリネシアまでの広範囲に渡り、原種の数が多いラン科植物第2の大属です。

名前は、ギリシア語のdendron（木）とbios（生ずる）に由来し、自然界では主に樹に着生します。強い光を好む種が多く、樹上より無数に垂れ下がり、シャワーのように一斉に開花するさまは、とても見応えがあります。日本に自生するセッコク（石斛）もデンドロビウムの1種です。

美しい種が多く、草姿、花型、花色が多様なことから、原種の系統別に育種が進み、営利栽培される重要な属となりました。

多数の交配種が見られ、沖縄でも切花として栽培されているデンファレ系がよく知られています。

（與儀 実史）

旧暦三月三日は、女性たちの行事である「浜下り」。潮の引いた海岸へ出向き、足を海水につけて身を清める日だ。その由来として、こんな民話がある。

昔あるところに美しい娘がいた。夜な夜な通ってくる男がいたが、娘が妊娠したので母親が聞いたですと、娘は男のことを「どこの人はわからない」と言う。そこで母親は娘に長い糸を通した針を渡し、男の着物に刺しておくように言いつけた。男が来た翌朝、母親が糸をたどっていくと、ほら穴に着いた。中からは「私は自分の子種を人間に宿らせた」「三月三日に海辺で波を蹴つたら、子種などおとりしてしまうのではないか」という会話が聞こえた。驚いた母親がほら穴をのぞくと、中には二匹のアカマタ（蛇）がいた。そこで三月三日に娘を浜辺に連れて行き、海水に足をつけたところ、へびの子がたくさん下りてきて、娘はすっかり元の体に戻った。それ以来、三月三日には、女性は浜辺へ下りて身を清めるようになったという。



# 「浜下り」

琉球王国時代の女性たちにとって、現実的には厄除けと称して労働を休む日という意味合いもあり、重箱に三月菓子などを詰めて、浜辺へ出かけた。また、戦前までは旧暦三月三日から五日にかけて畑仕事などを休む地域も多く、那覇郊外の農村部では、三日間唄や踊りを競い合った。

また、働き者の那覇の女性たちは三日に浜で重箱のごちそうを楽しみ、四日・五日はグループでお金を出し合って舟遊びや、貸し切りでの芝居見物など豪遊して女性と幼い子どもだけ楽しんだ。

現在では、女性だけでなく家族のレジャーとして浜下りを楽しむ人が多い。ちょうど沖縄はアース（ヒトエグサ）がおいしい季節。旧暦三月三日前後の週末にはお弁当を持って浜辺へ出かけ、潮干狩りや海藻を採って楽しむ光景をよく見かける。ちなみに2019年は4月7日が浜下りの日。岩場で海藻を採っている人がいたら、現代風浜下りだろう。

（文いいうえちず）



三月菓子  
小麦粉や玉子、砂糖などをこねて、揚げたお菓子。重箱にフィットするように、直方体にした生地に切れ目を入れる。

おきなわ  
暮らしの  
カレンダー

vol. 4



# 琉球食文化の保存・継承の取り組み



調理工程記録のようす

## ■ 琉球食文化研究所の設立

沖縄美ら島財団総合研究センター・琉球文化財研究室では、平成28年度より琉球王国時代から現代に至る沖縄の食文化について発展・継承を図ることを目的に調査研究を行っています。

その拠点となるのは、「琉球食文化研究所」です。「琉球食文化研究所」は、琉球文化財研究室と当財団が2016年9月に設立した株式会社琉球食文化研究所の複合施設になります。株式会社琉球食文化研究所は、琉球料理「美榮」(以下、「美榮」)の経営を行うとともに、琉球料理に関する調査研究・コンサルティング事業に取り組んでいます。複合施設である「琉球食文化研究所」では、独特な食文化を培ってきた琉球料理、中でも首里城地域周辺の王家の食文化に関する調査研究を行い、その保存継承・普及啓発に取り組んでいます。

## ■ 琉球料理「美榮」の料理とは

1958年(昭和33年)創業の琉球料理「美榮」は、1960年(昭和35年)建設の歴史を持つ建物や、漆器・陶器等の食器類、芭蕉布や紅



琉球料理「美榮」外観

型等の染織品、貼り子人形等の工芸品のほか、創業者古波蔵登美氏(以下、古波蔵氏)のレシピ・書籍等を所有しています。

創業者の古波蔵氏は、かつて首里・那覇の旧家出身者や包丁人(料理人)などへの聞き取りによる琉球食文化の調査を行い、その記録を残しました。また、古波蔵氏の兄のエッセイスト古波蔵保好氏※1から琉球国王の宮廷料理についての情報も得ていたことが推察されます。さらに、古波蔵氏は1962年(昭和37年)より料理研究家の新島正子氏と「琉球料理研究会」を主宰し、その会には戦後の琉球料理研究の先駆者である田島清郷氏※2

が相談役として参加していました。

「美榮」の料理はこれらの成果であり、琉球王国時代の流れをくむ料理であることがわかります。

## ■ 調査研究の内容

### (1) レシピの記録

最初に手掛けた調査は、現存する手書きのレシピや料理関係資料、書籍類や切抜き等の資料を分類、リスト化しデジタル化することでした。将来に亘り多くの方々が利活用できるように電子データとしました。

また、現在「美榮」においてお客さまに提供している料理37点の調理工程を写真・動画で記録保存することにも取り組んでいます。時間をかけた仕込み等の工程があり、1つの料理の記録に数日間を要することもあります。

これらの資料や記録が今後、料理の継承に役立つと考えています。



琉球料理「美榮」創業者の古波蔵登美氏



琉球料理「美榮」の創業者・古波蔵登美氏の残したレシピノート



尚家文書 第453号「御庖丁人江新家譜被下候伝議抜」  
所蔵：那覇市歴史博物館

### (2) 古文書の解説

調査研究においては、琉球王国時代の古文書や文献史料から情報を抽出する作業も進めています。

例えば国宝「琉球国王尚家関係資料」※3の古文書群(尚家文書)には、庖丁人に関する記録や、琉球王国最後の国王尚泰王の葬儀で出された料理の記録があります。また、土族の日記類には薩摩藩の役人へ振舞われた料理等の記録が残されています。これらの記録を抽出し、解説をすることで琉球王国時代の食文化に関する情報を収集しています。

しかし、このような古文書におい



琉球料理をテーマとした首里城講座

では、材料や料理名はあってもその調理方法についての記録はあまりありません。どのような場面で提供されたのか、この食材はどの場面によく使われているかなどを多くの情報を抽出し分析していくことにより、往時の食文化を理解することに繋がっていくと考えています。

### (3) 今後の展開

現在新たに取り組んでいるのは、古文書だけではなく、戦後の新聞などの記述から琉球食文化に関する記事を抽出する作業です。他にも県内の市町村史等から、食生活・儀礼や習俗に関わる食文化の情報を抽出することも予定しています。

現在、これらの調査結果は、イベントや講演会を通して普及活動を行っております。社会への還元・普及を行い、無形の文化財である食文化について県民の関心を高めること、観光客に琉球料理の素晴らしさを伝えるとともに琉球文化の体験、沖縄観光の新しい魅力づくりに寄与することが、「琉球食文化研究所」の使命の一つと考えています。

(久場まゆみ)

※3:那覇市歴史博物館所蔵

※1:戦前の尚順男爵(琉球最後の国王尚泰の四男)の宴席を体験し、琉球料理に関する著書を多く残したエッセイスト  
※2:尚家・松山御殿とも姻戚関係があり、尚順男爵の宴席に参加している人物

「海洋文化講座シリーズ やんばるのムラのくらし」開催！



名護市嘉陽区の網作り



名護市安部区のハーリー

沖縄美ら島財団総合研究センターでは、美ら島自然学校を拠点に名護市安部区・嘉陽区のムラを歩き、その豊かな文化遺産について解説するガイドツアー「海洋文化講座シリーズ やんばるのムラのくらし」を平成30年度4回の講座を実施しました。

これまであまり知られていませんでしたが、同地区には、沖縄本島の他地域では変容あるいは消滅してしまっただけでなく、年中行事をはじめ、身近な自然を利用する暮らしの知恵などの文化遺産が、今も生き生きと受け継がれています。そうした地域の文化遺産を活かした学習機会として、2018年は「やんばるの祭り」と舟」をテーマに開催しました。

また、2019年は「フィールドワーク入門」をテーマに、人々がどのように土地を利用してきたかについて解説するツアーを開催しました。参加者の方々にはどの回も楽しんでいただけたようで、綱引きの綱

作りの際は、地域の方々と共に汗を流す参加者の笑顔が印象的でした。

また何気ない風景の中に地域の歴史や文化を知ることができ、参加者の方々は大変驚いていました。

地域の人が長年にわたって大切に守ってきた聖地や伝えてきた年中行事に、他の地域から来た人が足を踏み入れ、参加することは実は簡単なことではありません。日頃から地域のみなさんと触れ合い、信頼を得ることで初めて開催できたと考えています。

総合研究所センターでは今後も地域のみなさんとの間に築き上げた信頼関係を大切に、文化遺産を残し伝えていく努力を継続してまいります。(板井英伸)

開催月	講座名
2018年 6月	やんばるの祭りと舟 アブシバレーの「船流し」とハーリー見学
8月	やんばるの祭りと舟 旧暦六月のハーリーと綱引き見学
2019年 1月	やんばるムラのくらし ムラを歩こう-遺跡・聖地編
3月	やんばるムラのくらし ムラを歩こう-地形・土地利用編



名護市嘉陽区の聖地ツアー



名護市安部区のアブシバレー

うぐしくものがたり Vol.19 御城物語

かつて、首里の人々が「御城(うぐしく)」と呼び、敬愛のまなざしで見上げた首里城。首里城とその周辺に関係するトリアを語る歴史エッセイ。

御内原の女性たち

正殿の裏側にあたる一帯は、「御内原」と呼ばれ、国王とその家族及びそれに仕える100名ほどの女官たちが暮らすプライベート空間となっていました。ここは王家を除いて男子禁制の領域でした。女官たちは寄満の中門や淑順門を利用して御内原に出入りし、外に出ることはほとんどありませんでした。

御内原に仕える女官は、主に首里城近辺の農村から選ばれ、国王とその家族の世話のほか、様々な職務を行う「城人」と総称されるグループと、王妃・国王夫人の近親者から選ばれ、身の回りの世話をを行う「御側御奉公」と称される、士族の婦人のグループに大別されていました。

御内原については資料が少なく、世誇殿、女官居室のように復元されている建物と、施設跡として復元した箇所があります。

当時の様子を思い描きながら、琉球王国時代の歴史に思いを馳せてみるのもよいかもしれません。2019年2月に御内原エリアが供用され全面開園となった首里城公園を、ぜひご覧ください。(幸喜 淳)

御内原エリア



手あざ vol.3

琉球王国時代から現代へ受け継がれてきた手わざ。がっつくり出す伝統工芸の魅力にせまります。

今日、沖縄県内外で親しまれている沖縄の陶器、ヤチムン(焼物)にも紆余曲折の歴史があります。

琉球王国時代のヤチムンは主に王国内向けに生産され、交易品でもあった漆器・染織などと異なる位置付けでした。

明治期に入り県外から安価な量産品が流入するとヤチムンは大打撃を受けます。

この時、力となるのが「手仕事の美」を唱えた柳宗悦らの民藝運動です。柳は1938年(昭和13年)に沖縄を訪問し、尚順(最後の尚泰王の子)と対談します。ヤチムンの魅力を聞かれて柳は「白釉ですね、こちらの白は暖かくて良いですよ。それに赤絵(※1)：(後略)(※2)と答えます。著作でも『線彫で模様を描きこれに色を差す手法』は『本

ヤチムン(焼物)の魅力

土の窯にも管て多少はあったが、琉球のような発達の跡を見かけない」と記し、壺屋焼を「最も卓越したもの」と賞賛しています(※3)。

その後「沖縄の戦後は壺屋から始まった」と言われる通り、再び沖縄県民の生活用品となる時代が訪れ、さらに美術工芸として県内外から幅広く支持を受けるようになります。

現在も人気を誇るヤチムンですが、良質な材料の不足など様々な課題も抱えています。他方、失われた伝統技法の調査・研究や復元が、研究機関・製作者の連携が進められ、ヤチムンの魅力や産業の可能性が再発見されつつあります。(鶴田大)



いろえかもんかもんいりついでん 色絵花文(家紋入)対瓶(19世紀中頃 沖縄美ら島財団所蔵) 琉球王国時代の上層士族が使用したもの。白地に赤絵(色絵)の壺屋焼は柳宗悦らに評価された。



におう せんこくぎよもんおおざら 仁王作「線刻魚文大皿」(20世紀 沖縄美ら島財団所蔵) 線彫り~色差しは貴重な色材の節約のためだったが、今や壺屋の代表的技法となった。

※1: 赤絵とは発色に高度な技術を要す赤を含む、多色陶磁器のこと

※2 引用:『松山王子尚順全文集』

※3 引用:『柳宗悦全集 15』



「美ら海ナイトアクアリウム」のようす

1975年(昭和50年)の沖縄国際海洋博覧会を記念し、博覧会跡地に国が設置した海洋博公園。2019年2月1日から沖縄美ら海水族館およびオキちゃん劇場などの水族館関連施設の管理主体は沖縄県に移管。

「沖縄県への移管後も指定管理者として、引き続き管理します。国の海洋博公園の公園運営管理はしっかりと行う。さらに、水族館関連施設は沖縄県が管理主体になることで、沖縄21世紀ビジョンや、沖縄県観光振興基本計画に沿って、県民の利便性を重視していくということです」

と、水族館事業部の佐藤圭一統括。観光産業は今や沖縄県の基幹産業。交通インフラの整備として、那覇空港第二滑走路や、クルーズ船の本部港寄港も予定されている。

「財団としても、他の観光関連施設と連携して、沖縄本島北部観光に貢献したいと考えています」

すでに実践中の取り組みもあるが、現在、試行的に行っているのが、混雑緩和だ。混雑は日中に集中することをふまえ、夏休み・冬休みの期間中に、「黒潮の海」大水槽前にソファアーヤクッションを設置、夜の水族館をゆつ

くり楽しむことのできる「美ら海ナイトアクアリウム」と題したイベントを開催。周辺ホテルの協力でホテルと沖縄美ら海水族館を結ぶ臨時送迎バスを運行頂いたほか、連携してPRを行った。

「県内の、特にお子さんのいる家庭では沖縄美ら海水族館の年間パスポート購入率が高い。夕方からのイベントは、比較的混雑の少ない時間にゆつくりと楽しんでもらうきっかけになります。2019年3月は、『美ら海ナイトアンサンブル』海と音楽のシンフォニー〜と題し、夕方に「黒潮の海」大水槽前でバイオリンなどを中心としたライブ演奏を開催しました。水槽のゆつたりとした雰囲気と音楽が合っていると好評。いつも混んでいるという印象が、『朝夕はゆつくりできていいね』に変わればと思います」

また、海洋博公園の役割の一つに、自然環境保全に関する普及啓発活動がある。代表的な活動が「ウミガメ放流会」や産卵調査だ。

「今後はもっと間口を広げて、水族館ファンの皆さんと共に、生息



- ①2019年3月に開催した「美ら海ナイトアンサンブル〜海と音楽のシンフォニー〜」。黒潮の海大水槽前でゆつくりくつろぐ人の姿が多数。
- ②ウミガメとのふれあいを通して沖縄の海と自然を学ぶ「ウミガメ放流会」。平成30年度は海洋博公園と美ら島自然学校で約1年飼育した子ガメを放流した。
- ③水族館事業部の佐藤圭一統括
- ④夏と冬に開催する「マナティーたいけん学習」餌やりの様子。
- ⑤毎日開催している「イルカ給餌体験」は予約不要のプログラムで人気体験の一つ。
- ⑥名護市源河川で行った「リュウキュウアユ放流会」の様子。約1,000匹放流した。



調査などに取り組みたいと考えています。県民の皆さんと一緒に動き、海岸を観察する『目』の数が増えれば、きめ細かな調査が可能になります。まず、県民に興味を持ってもらうこと。特に次世代を担う子ども達が高い意識を持つことは、プラスチックごみをはじめとする海の環境問題の改善につながるかと確信しています」

総合研究センターと共に、学校向け環境学習とバックヤードツアーが一体化した内容も可能になる。

「事前味噌ですが、水生動物に関する

財団の研究水準は、世界でもトップクラス。繁殖技術の研究を推進して、海や川に還すまでになれば、持続可能なツーリズムに大きく貢献できます。すでに2009年から、沖縄美ら海水族館では絶滅危惧種のリュウキュウアユを人工授精により繁殖させ、名護市の源河川に放流する取り組みを行っています。また、外国人観光客に環境問題をアピールできれば、グローバルな取り組みにも発展します。持続可能な沖縄観光に貢献していきたいですね」

(文)いのうえちず

国内最大級のランのイベント、沖縄国際洋蘭博覧会(以下、洋蘭博)期間中は約3万点以上ものランが展示され、毎年約3万人もの来場者とその美しさを愛でる。オープンングセレモニーをはじめ、人気イベント「オーキッドブライダル」のブーケや会場装飾、幅広い年齢層の方に好評のコース教室など、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会(以下、NFD)の協力は洋蘭博に無くてはならないもの。NFD沖縄県支部長である仲田るみ子さんに、華やかな舞台の裏側についてお聞きした。



公益社団法人  
日本フラワーデザイナー協会  
沖縄県支部長  
仲田るみ子 なかだ るみこ

—NFDとは、どのような活動をされている団体ですか?  
仲田「1967年(昭和42年)に設立され、2018年で51周年を迎えました。全国に53の支部があり、会員数は約2万1千人です。2010年にはフラワーデザイナー組織として唯一の公益社団法人に認定さ

れました。活動には大きく三つの柱があります。一つ目は、フラワーデザインの資格・検定・ディプロマ(修了証)事業、二つ目はフラワーデザインを通じた社会貢献活動、三つ目は公認校の認定事業です。沖縄県支部は1979年(昭和54年)に設立されました。初代支部長の

めて:ボールの位置がずれたり、カット後に落ちたりしないように、見えない部分で工夫しています」  
—NFD会員の皆さんには、洋蘭博のコンクール審査部門に数多くご出展いただいています。ディスプレイ審査の部、フラワーデザイン審査の部とも、受賞作も多いですね。  
仲田「沖縄県支部としても、会員に応募を呼びかけています。洋蘭博は私たちにとって楽しみなイベント。認められるのはすごくうれしいですね。受賞すれば張り合いますし、やりがいがあると思います。出展の2~3日前に水切りをして、深水につけたり、水揚げをして切り口を消毒するとか、自分が持っているありったけの知識を絞りながら、お花をベストの状態に仕上げていく。皆さん、作品をつくる時には真剣に戦っています。大切なのは、邪心なくお花の性質と向き合うこと。花を美しく事細かくテーマに沿って表現していくことだと思います。」

仲田「現場は大変ですよ(笑)。オーキッドブライダル等、会場装飾の総合デザインでは高い所での作業もありますから、体力とデザイン力を要します。でも、洋蘭博が近づいてくると、何だか気分がウキウキして、こういう構成にしているとか、どんなテーマでやろうとか考えます。」  
—そんなご苦労もある作品も含め、洋蘭博には県外や国外からも大勢の方がいらっしやいますね。  
仲田「会期中に3日間開催するコース教室にも、国外の方が増えましたね。2019年は1日目が土曜日で132名、2日目は日曜日で182名、3日目は月曜日で54名前後の方がいらっしやいました。そのうち国外の方が何名という数字はとっていませんが、年々増えているという実感があります。コースの作り方は、パターンがいくつかあります。私たちもカタコトの英語で対応しながら楽しんでますよ」  
—楽しむという姿勢も、やりがいを感じる秘訣かもしれませんね。  
仲田「特に洋蘭博は、県内外の生産者さんが一生懸命育てたランを、いかに美しく表現するかというところにもやりがいを感じます。東

—邪心が出るというのは面白いですね(笑)。優雅に見えるお花の世界ですが、重労働ですよ。洋蘭博の現場はいかがですか?

—今年もまた、お花の魅力を伝えるために、県内外の生産者さんが一生懸命育てたランを、いかに美しく表現するかというところにもやりがいを感じます。東

嘉陽かやう馥子ふくこ先生は沖縄のフラワーデザイナーを数多く育成されてきました。45名で発足した沖縄県支部ですが、現在の会員数は117名です」

—沖縄県支部ではどのような活動をされていますか?

仲田「年に1度総会を開くほか、講習会を開催して会員のスキルアップを図ります。また、公益事業活動も行っており、沖縄県学校農業クラブ連盟大会のフラワーアレンジメント競技や沖縄県職業能力開発協会のフラワー装飾の技能検定、沖縄県フラワー装飾技能競技大会、沖縄県花卉園芸農業協同組合主催の『おきなわ花と食のフェスティバル』で行われる沖縄フラワーデザインコンテストなどで審査員を務めています」  
—年間行事がそれだけあると、お忙しいですね!

仲田「そうですね。沖縄県内で何かお花に関するイベントがあると、大体関わっています。2018年は沖縄県内で全国技能五輪・アビリティック(全国障害者技能競技)大会があったので、フラワー装飾競技の会場設営や花の準備などのサポートも担当しました」

京のNFD本部から来られる先生方に最近よく言われるのが、沖縄県産の花は色がいい、花持ちがいいということ。品種改良が進んで、県外・国外にも引けを取らない繊細なものが増えているとも言われています」



沖縄国際洋蘭博覧会2019「コース教室」のようす

—会員はどんな方が多いですか?  
仲田「フラワーショップ勤務だったり、冠婚葬祭の装花を仕事にされていたり。趣味でお花に携わっている方々もいます。花関係の仕事に就いている方も多くいます。皆さん勉強熱心で、NFDの講習会とは別に、それぞれで勉強会を開いたりして、感性・技術ともに磨いている方が本当に多いと思います」

—そんなお忙しい中、約30年洋蘭博でもご協力いただいています。

仲田「大きなイベントですから、私たちがだけでなく、いろんな職種の方に関わって、盛り上げていると思います。洋蘭博でNFDは、オープンングセレモニーでの来賓用コースやテーブルカット用のフラワーボールの作成、コース教室への講師派遣、オーキッドブライダルで花嫁が持つブーケと花婿の胸につけるブートニアの作成、ブライダル会場の装飾を担当しています。テーブルカット用のフラワーボールの花は、ひと玉あたり10本分のデンファレの花を使いました。テーブルカットのリボン本体にフラワーボールを固定するパーツもリボンで作って、ホチキスでと

—沖縄美ら島財団(以下、財団)は植物研究の蓄積を生かして新園芸品種「ちゅらら」の開発を行うなど、花卉栽培にも貢献しています。ちゅらは切り花でも1カ月もつという驚異的なもちが特長でもあります。沖縄の花卉栽培や園芸の今後の発展について、フラワーデザイナーの立場からご覧になって、いかがですか。

仲田「洋蘭博は私たちフラワーデザイナーにとって、日ごろの成果を発揮できる機会で、非常にやりがいを感じています。花卉栽培も含め、お花の世界全体が盛り上がっていると思います。害虫やカビの対策さえすれば、沖縄の花卉栽培には亜熱帯気候の優位性があると思います。フラワーデザイナーで言えば、最近繊細な雰囲気主流。NFDの会員はそれが表現できていると思いますが、財団との協力体制のもとで、もっと表現を磨きたいですね」

—ありがとうございました。  
(文いいうえちず)

もとぶ産シークワーサー活用!

沖縄美ら海水族館オリジナル商品

「おきなわシークワーサーフィナンシェ」新発売

「キュンとする果実を、優しさで包みました。」

2019年2月1日、沖縄美ら島財団は地域貢献と産業振興を目的に、本部町、もとぶ産シークワーサー生産・消費拡大推進協議会の協力のもと、農業生産法人もとぶウェルネスフーズ株式会社、株式会社エーデルワイス

沖繩とともに、もとぶ産シークワーサーを使った、キュンとする酸味と、バターの豊潤な風味を感じられる新商品「おきなわシークワーサーフィナンシェ」を発売しました。

2月12日には、本部町庁舎にて共同記者発表を行いました。

実際に商品を購入頂いたお客さまからは「シークワーサーの酸味が沖縄らしい」等、好評頂いています。

新しい沖縄の味を、ぜひお楽しみください。



沖縄美ら海水族館特製オリジナルパッケージ

商品仕様

商品名/おきなわシークワーサーフィナンシェ  
価格/5個入り 800円(消費税込)  
10個入り 1,350円(消費税込)

- 販売店舗
- 海洋博公園内
    - 沖縄美ら海水族館ショップ「ブルーマンタ」
    - 総合案内所ハイサイプラザ内ショップ「やんばるの社」
    - オキちゃんショップ
  - 沖縄美ら海水族館アンテナショップ「うみちゅら」
    - 国際通り店
    - 那覇空港店
  - なごアグリパーク内
    - アグリショップ「しまちゅら」
  - もとぶかりゆし市場 (予定)



（左より）農業生産法人もとぶウェルネスフーズ株式会社 長濱功取締役工場長、もとぶ産シークワーサー生産・消費拡大推進協議会 伊野波盛二会長、株式会社エーデルワイス沖繩 山本憲司代表取締役社長、本部町 平良武康町長、沖縄美ら島財団 花城良廣理事長 後藤和夫常務理事

首里城「奥」の世界  
御内原エリア等がついに開園

首里城公園は1992年(平成4年)に復元公開された正殿を始め、順次公開エリアを広げてきましたが、2019年2月1日に新たな公開エリアとして、正殿の東側に位置する御内原エリア等を開園しました。これを記念して、首里城公園内では様々なイベントを行いました。

1月28日〜31日まではプレオープンとして御内原エリアを無料開放し、2月1日には開園記念イベントとして、FM沖繩「ハッピーアイランド in 首里城」の公開生放送、伝統芸能特別公演や歴史衣装付体験などを実施し、多くのお客さまから好評いただきました。

また、2月1日から沖縄県民の利用促進を図るため、県民限定で70歳以上の方を対象に入場料が無料になる割引(試行)を開始いたしました。さらに事前に入場券が購入できる園外販売券を導入いたしました。

新しいエリアが開園し、さらに見どころが増えた首里城公園。歴史の風を感じる首里城公園へ、皆さまのご来場をお待ちしております。



正殿の東側に広がる御内原エリア等

沖縄県民割引

70歳以上の方  
入場無料! (試行)

首里城正殿など有料区域の入場料が無料!  
この機会にぜひ首里城公園へ!

※入場の際は、券売所にて現住所と生年月日が確認できる公的証明書の提示が必要となります。

沖縄県立芸術大学 美術工芸学部・大学院造形芸術研究科 第30回卒業・修了作品展にて  
「沖縄美ら島財団理事長賞」を授与

沖縄美ら島財団は、次世代の沖縄を担う若者の文化芸術活動を奨励し、将来、沖縄を背景に広く世界で活躍してほしいという願いを込め、沖縄県立芸術大学美術工芸学部・大学院造形芸術研究科卒業・修了作品展

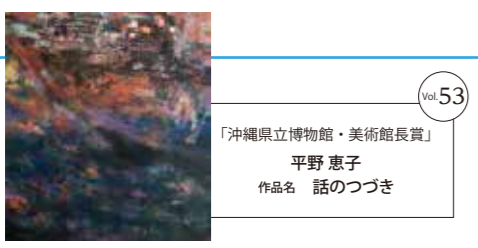
において、「沖縄美ら島財団理事長賞」の授与を、2016年より実施しています。

2019年2月13日〜2月17日に開催された第30回作品展では、漆芸分野4年の上江洲 安龍さんの作品「黒漆花紋螺鈿八角東道盆」が受賞されました。

琉球漆器独特の形態で蓋のある足付の料理容器「東道盆」を作者なりのデザインで表現した作品です。

また「北中城村長賞」「北中城村文化協会賞」「沖縄県立博物館・美術館館長賞」がそれぞれ授与されました。

受賞作品および推薦作品を、「南ぬ風」vol.51春号〜vol.54冬号の表紙にてご紹介する予定です。学生生活の集大成として制作された才能あふれる作品の数々に、ぜひご注目ください。



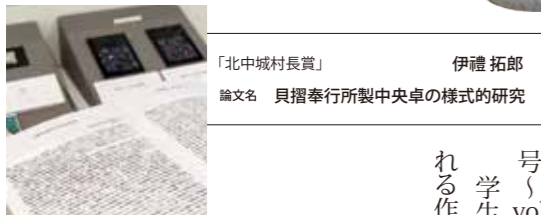
Vol.53 「沖縄県立博物館・美術館長賞」  
平野 恵子  
作品名 話のつづき



Vol.52 「北中城村文化協会賞」  
川田 勇介  
作品名 ヒージャーの夢



Vol.51 「沖縄美ら島財団理事長賞」  
上江洲 安龍  
作品名 黒漆花紋螺鈿八角東道盆「陽」



「北中城村長賞」 伊禮 拓郎  
論文名 貝摺奉行所製中央卓の様式的研究



Vol.54 推薦作品 福田 周平  
作品名 「change / immutable laws-endogenous / exogenous influence 001-」  
「change / immutable laws-endogenous / exogenous influence 002-」

※「北中城村長賞」が論文作品のため、推薦作品を vol.54 の表紙でご紹介します。

沖縄美ら島財団那覇事務所「芙蓉館」開設しました



那覇事務所 外観

このたび、沖縄美ら島財団は本部機能の強化と琉球文化財関連の調査研究のさらなる推進を目的に、沖縄県那覇市首里桃原町の松山御殿跡地に那覇事務所を開設いたしました。

2階部分は会議室等を設置し、本部機能の強化として、指定管理施設の事業推進や支援、国や地方自治体、観光関連業界との情報交換・連携強化、那覇市内にある沖縄美ら海水族館アンテナショップ

「うみちゅら」等直営店舗の営業部門強化など、様々な事業展開を図っていく場として活用していきます。

1階部分は、総合研究センター琉球文化財研究室が調査研究を推進してまいります。さらに、当財団が所蔵する書物を管理する書庫とそれを閲覧できる閲覧室を設け、歴史研究者や地域の方々にも開放していく予定です。

今後、那覇事務所を拠点として、さらなる事業推進を図ってまいります。

沖縄美ら島財団 那覇事務所 「芙蓉館」

〒903-0822 沖縄県那覇市首里桃原町1-13  
TEL.098-943-3820 FAX.098-943-3821

2019年2月から引き続き管理運営決定

2018年12月、内閣府沖縄総合事務局による公告「H30-34 国営沖縄記念公園運営維持管理業務」に関して落札決定の発表があり、引き続き国営沖縄記念公園海洋博覧会地区、首里城地区の管理運営を受託することとなりました。

また、国営沖縄記念公園海洋博覧会地区の水族館及び海獣施設等ならびに首里城地区の首里城正殿等について、沖縄県が内閣府沖縄総合事務局より管理許可を受けることとなり、2018年12月に指定管理者として選定されました。

さらに、沖縄県募集の県営首里城公園の指定管理者募集についても2018年12月に引き続き指定管理者として選定されました。

沖縄県の観光中核施設として、より一層沖縄県民をはじめ、多くのご来園・ご来場の皆さまにご満足頂けるよう、これまでの管理運営経験を活かし、各種研究成果の活用等を行い質の高いサービスをご提供できるよう、職員全員で取り組んでまいります。

新発売「おきなわシークワーサーフィナンシェ」は、甘さ控えめで、シークワーサーの果皮のピターな味わいも楽しめます。ぜひお試しください! (K.S)



# おもろさうしの

# 植物

其の十六

琉球王国第4代尚清王代に首里王府によって編纂された歌謡集「おもろさうし」に登場する植物の紹介コーナー。  
※ 海洋博公園内おもろ植物園で見ることが出来ます。

## 「あわ」

(アワ)

(前略)

又 我が浦の習い

我が国の習い

又 あわ神酒 作て

黍神酒 作て

【第一七巻一一九三】

一口メモ

アワは主に畑地で栽培される一年生草本で、根元から1.5メートル程の茎が直立する。乾燥に強いため土地を選ばず、寒冷地から温暖地まで広範囲に栽培可能であり、さらに栽培期間は百日前後と短いことから、貴重な食料源として栽培されている。発祥地はインド北西部から中央アジア付近と考えられており、日本へは朝鮮を経て伝来した記録がある。  
沖縄では15世紀後半の『李朝実録』にアワ栽培の記録があり、そのころから沖縄全域ですでに栽培されていたと思われる。明治35年頃には栽培面積はマメやムギ類よりも多く、サツマイモに次ぐ作物であった。

(前略)

わが村の習わしである

わが辺戸の習わしである

粟神酒を作つて

黍神酒を作つて

(神にささげ、お祝いをしよう)

【解説】

わが村の習わしである。わが辺戸の習わしである。粟神酒を作つて、黍神酒を作つて、神にささげ、お祝いをしよう。

「あわ」は、植物名。粟。実は小粒で黄色。「きみは」は、植物名。黍。共通語では「きび」という。きびだんごなど。

沖縄本島の北端にある旧辺戸村の海岸では海苔(海藻)がよくとれる。海苔がとれる季節になったので、粟神酒、黍神酒を作つて、神にささげ、お祝いをしようと言ったオモロ。

わが村の習わしである。わが辺戸の習わしである。粟神酒を作つて、黍神酒を作つて、神にささげ、お祝いをしようと言ったオモロ。

和名 アワ  
科名 イネ科  
方言名 アワ



※ 出典:「おもろさうしの植物」 発行:(財)海洋博覧会記念公園管理財団(現・(一財)沖縄美ら島財団)

沖縄美ら島財団



沖縄美ら島財団  
総合研究センター



海洋博公園



首里城公園



美ら島  
自然学校



当財団では、これまでに蓄積してきたノウハウを活かし、普及啓発、環境保全、地域貢献等の活動に取り組んでいます。

美らなる島の輝きを御万人へ

沖縄美ら海水族館



沖縄県立  
名護青少年の家



なご  
アグリパーク



沖縄県立博物館・  
美術館(おきみゆー)



2019年4月発行

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

企画・編集・発行

一般財団法人

沖縄美ら島財団  
Okinawa Churashima Foundation

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888

TEL.0980-48-3645 FAX.0980-48-3900

季刊誌 南ぬ風 春号 vol.51  
2019.4~6

制作・印刷/株式会社 東洋企画印刷

〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4-21-5



この印刷物の情報は個人情報保護マネジメントシステム(プライバシーマーク)を適用しています。  
株式会社 東洋企画印刷 プライバシーマーク (24000430)

ISSN 2189-4140